

学長定例記者会見要項

日 時： 令和6年8月1日（木） 11:00～11:45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター キックオフイベントを開催します
2. 実績報告書の創刊について～山形大学医学部東日本重粒子センター～
3. オフロード版トライアスロンで2023年度日本ランキング1位！イタリアでの世界選手権に出場！
～研究とスポーツで大学院生が二刀流のチャレンジ～
4. 「しなやかに」そだつ・そだてる、「豊かに」つなぐ・つながる教師の育成プログラムの開発
～地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業（文科省）に採択～
5. プログラミング学習「paiza ランクチャレンジ」を国立大初導入～地域に貢献できる高度情報理系人材を輩出～
6. めーかーずフェスタ 2024 de 米沢を開催します！～10月5日（土）・6日（日）に米沢市伝国の杜にて～
7. 日本地質学会第131年学術大会（2024 山形大会）開催
8. 「蔵王高層気象着氷対策研究所」を囲んでいた石積みの南側の一部が残っていたことが確認されました

お知らせ

1. 第3回山形大学異分野交流学会を開催します
2. アフリカ農業従事者の来日研修が山形大学農学部で開始
3. 小学校理科の教育プログラム－スキルアップ講座－を実施します

（参 考）

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和6年9月5日（木） 11:00～11:45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（8月1日）発表

1. 山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター キックオフイベントを開催します

農山村リジェネレーション共創研究センター長

農山村リジェネレーション共創研究センター・教授

むらやま ひでき
村山 秀樹
はやしだ みつひろ
林田 光祐

2. 実績報告書の創刊について～山形大学医学部東日本重粒子センター～

山形大学医学部東日本重粒子センター長

大学院医学系研究科先進的医科学専攻/重粒子線医学講座教授

いらい たけお
岩井 岳夫

3. オフロード版トライアスロンで2023年度日本ランキング1位！イタリアでの世界選手権に出場！ ～研究とスポーツで大学院生が二刀流のチャレンジ～

有機材料システム研究科 博士前期課程2年

いろかわ たけひろ
色川 岳宏

4. 「しなやかに」そだつ・そだてる、「豊かに」つなぐ・つながる教師の育成プログラムの開発 ～地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部機能強化事業（文科省）に採択～

地域教育文化学部長

地域教育文化学部副学部長

地域教育文化学部学務委員長

なかにし まさき
中西 正樹
あんどう こうき
安藤 耕己
よしだ まこと
吉田 誠

5. プログラミング学習「paiza ランクチャレンジ」を国立大初導入～地域に貢献できる高度情報理系人材を輩出～

理学部長

paiza 株式会社 paiza ラーニング部部長 兼 社長室室長

なびか ひでき
並河 英紀
おぐら なおき
小倉 直樹

6. めーカーズフェスタ2024 de 米沢を開催します！～10月5日（土）・6日（日）に米沢市伝国の杜にて～

学術研究院（電子デバイス工学）教授

学術研究院（電子デバイス工学）助教

よこやま みちお
横山 道央
はらだ ともちか
原田 知親

7. 日本地質学会第131年学術大会（2024山形大会）開催

学術研究院（理学部主担当）教授

学術研究院（理学部主担当）教授

もとやま いさお
本山 功
ばん まさお
伴 雅雄

8. 「蔵王高層気象着氷対策研究所」を囲んでいた石積みの南側の一部が残っていたことが確認されました

山形大学蔵王樹氷火山総合研究会 副会長

やなぎさわ ふみたか
柳澤 文孝

令和6年（2024年）8月1日

山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター キックオフイベントを開催します

【本件のポイント】

- 山形大学は全学組織として、令和6年4月1日に「山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター」を鶴岡キャンパスに設置。発足イベントとして、開所記念式典および記念講演会を開催します。

【概要】

山形大学は、全学の教育研究支援組織として、令和6年4月1日付で「山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター」を鶴岡キャンパスに設置しました。本センターでは、新たな視点からの土地利用・活用方法を検討し、森林資源の最大活用や野生動物管理の革新による農山村の再生を目指します。

具体的には、野生動物由来の生態リスク（生活・産業・生物多様性への影響）を特定し、人口減少時代に適合した野生動物管理システムの再構築をめざし、実装可能な対応策を検討します。また、多様な機能を有する森林を最大限に活用するために、スギ人工林だけでなく、広葉樹林の資源を多面的に活用する方法を開発するとともに、森林の多機能を価値化する指標を科学的な根拠をもとに開発・提案し、それをもとにした森林クレジットを活用した森林管理ビジネスモデルの構築を目指します。さらに、新しいコモンズ形成や集落の再生・再編を含む地域資源利用・管理のあり方を総合的に提示することを当センターの目標としています。これらの研究を進めるとともに、地方創生及び高度職業専門人材の育成にも貢献します。

このたび、当センターの開所を記念して、令和6年8月28日（水）に鶴岡市の東京第一ホテル鶴岡において記念式典および記念講演会を開催します。当センターの活動および取り組みを多くの皆様に知っていただく機会になれば幸いです。

【日時】 令和6年8月28日（水） 受付 13:00
開式 14:00

【会場】 東京第一ホテル鶴岡（鶴岡市錦町2番10号）

【式次第】

第1部 開所記念式典 14:00～14:30（会場：1階 鳳凰の間）

- 1 挨拶
- 2 来賓祝辞
- 3 センター紹介

第2部 記念講演会 14:40～16:30（会場：1階 鳳凰の間）

- 1 基調講演 演題：調整中
株式会社野村総合研究所未来創発センター長 神尾 文彦 様
- 2 研究紹介 各部門の紹介
野生動物研究部門長 教授 江成 広斗
安全・健康研究部門長 准教授 西山 正晃
生活・経済研究部門長 教授 林 雅秀
森林資源管理研究部門長 教授 林田 光祐

担当：鶴岡キャンパス事務部総務課研究・社会共創室

TEL：0235-28-2909

メール：yu-nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター

—新しいコモンズ形成による野生動物管理と森林資源の最大活用で魅力的な農山村に—



組織の概要

土地利用の再配置を基軸としたバックカスティングによって、森林資源の最大活用と野生動物管理の革新による農山村の再生を目指す。具体的には、人口減少時代に適合した野生動物管理システムの再構築をする。森林の多機能を価値化する指標をもとにした森林クレジットを活用した森林管理ビジネスモデルの構築を目指す。さらに、新しいコモンズ（共有地）形成や集落の再生・再編を含む地域資源利用・管理のあり方を総合的に提示することを当センターの目標とする。

必要性

人口減少が進む時代を迎え、日本の農山村や地方都市では農林業の担い手不足や地域経済の衰退だけでなく、日常生活の維持も困難になりつつある。地域が抱える問題（野生動物被害、荒廃する森林、限界集落、人畜共通感染症など）は多様であり、かつ相互に関係しているため、現在の課題を一つずつ解決する方法ではすでに手遅れの状態にある。

これまでの成果

山形大学には、特定鳥獣保護管理の分野では日本を代表する研究者や、共有林と対象としたコモンズ研究の第一人者など、農山村が抱える諸問題の解決に貢献できる研究者が多く在籍している。



地域の課題

農山村のリジェネレーションは、これまでの課題解決型のフォーカスティング的な対策からは決して生まれない。土地利用の再配置を基軸としたバックカスティング的な地域づくりへのパラダイムシフトを早急に実現し、新たなコモンズ（共有地）の形成によって、野生動物との接点を減らして安全・健康を確保するとともに、地域資源を活用したエネルギーの自立、炭素固定能を活用した森林資源管理の自立が求められている。

閣議決定等

（骨太方針2023）デジタル技術を活用した農山漁村の課題解決のための枠組みの創設を行う。土地改良事業により農地の大区画化や汎用化・畑地化を進めるとともに、鳥獣対策、家畜疾病対策を推進する。

（第六次国土利用計画）国土利用・管理の基本的な3つの基本方針に貢献する：①地域全体の利益を実現する最適な国土利用・管理、②土地本来の災害リスクを踏まえた賢い国土利用・管理、③健全な生態系の確保により繋がる国土利用・管理



人口減少地域における
野生動物管理による
安全・健康の確保

産官学による
森林クレジットの創出・流通

期待される成果



やまがた社会共創
プラットフォーム

地域の課題解決のための学部横断型研究へのニーズが高まる。



持続可能な社会を目指した研究が加速される。



YAAS

食と環境を繋ぐ研究が活性化される。



SDGs未来都市鶴岡
デジタル化推進有識者会議
（デジタル田園都市国家構想
関連交付金に選定）

本研究センターの基礎となる組織の位置づけ・役割

現在の課題

- ①社会的な背景・必要性: 人口減少が進む時代を迎え、日本の農山村や地方都市では農林業の担い手不足や地域経済の衰退だけでなく、日常生活の維持も困難になりつつある。人口減少社会における持続可能な地域づくりには、地域の基盤となる一次産業や農村経営に関わる高度な知識・技術を身につけ、地域課題を理解するとともに地域の将来像を描くことができる人材が必要である。
- ②主たる地域課題として、近年各地で野生動物との軋轢が表面化している。特効薬のないマダニ感染症や新型コロナウイルスに代表される人畜共通感染症の問題も、野生動物に深くかかわっている。農学部においては、これまで「東北野生動物管理研究交流会」を主催するなど先進的な研究成果を提供してきた。また、森林資源管理への先端技術の導入の研究も進めており、今後の農山村活性化のためには、産学官連携による新技術開発に裏付けられた森林の多面的機能の金銭価値化とそれを地域に社会実装する仕組みづくりが重要である。

「農山村リジェネレーション共創研究センター」

村山センター長、渡部戦略企画室長、林田同副室長、農学部を主とする5学部16名の副担当教員で研究を開始

野生動物研究部門

森林、農地、宅地の変化による影響を調べるために、野生動物の生態を考慮した生息地予測、人間とのかかわりの中での加害性予測、マダニ感染症の媒介に関する調査を行う。あわせて、効率化・低コスト化を可能とする野生動物モニタリング調査の新たな技術開発を行う。

安全・健康研究部門

野生動物由来の感染症のリスク評価研究を行う。野生動物の生息地の変化がマダニ類が保有する病原体や薬剤耐性菌による汚染にどのような影響をおよぼすか調べる。また、地域社会ニーズの影響として、斜面崩壊（土砂崩れ）のリスク評価研究も行う。

森林資源管理研究部門

スギ人工林だけでなく多様な広葉樹林の森林バイオマスの推定手法とその脱炭素機能（カーボクレジット）の定量手法の開発を行うとともに、森林が有する生物多様性保全、土砂災害防止などの機能を総合的に評価する方法を開発する。

生活・経済研究部門

新しいコモنزの提案とそれに関する合意形成に関する研究を行う。また、集落の再編の成功条件や外部人材および先端技術が果たす役割を評価する。さらに、統合的アプローチを用いた新たな地域資源利用・管理のあり方を提示する。

研究成果の社会実装

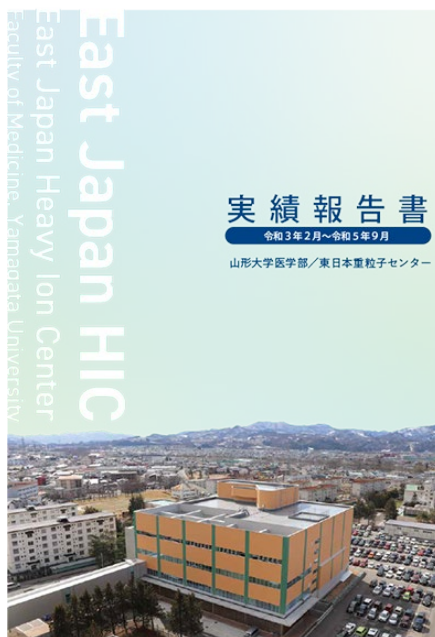
人口減少時代に適合した森林・農地・住宅地・道路を含む土地利用のデザインを検討し、新しいコモنزを含む地域計画の指針を提示

PRESS RELEASE



令和6年（2024年）8月1日

実績報告書の創刊について ～山形大学医学部東日本重粒子センター～



【概要】

当センターでは、令和3年2月に前立腺がんの治療を開始して以来、段階的に治療対象を広げ、令和4年10月からは、当初予定していたすべての疾患の治療受け入れを開始いたしました。本書は、その本格稼働から1年間の経過を節目として、令和5年9月までの実績を取りまとめた初の報告書です。来年度以降は、年報として刊行予定です。

以下URL（当センターウェブサイト）からPDFをダウンロードできます。

URL：<https://www.id.yamagata-u.ac.jp/nhpb/publications/report/index.html>



お問い合わせ

山形大学医学部東日本重粒子センター事務室

電話：023-628-5576

e-mail：yu-heavyion@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL：<https://www.id.yamagata-u.ac.jp/nhpb/>



山形大学医学部

東日本重粒子センター

EAST JAPAN HEAVY ION CENTER

FACULTY OF MEDICINE - YAMAGATA UNIVERSITY

令和6年（2024年）8月1日

オフロード版トライアスロンで2023年度日本ランキング1位！ イタリアでの世界選手権に出場！

～研究とスポーツで大学院生が二刀流のチャレンジ～

【本件のポイント】

- 有機材料システム研究科 博士前期課程2年生 色川岳宏さんがオフロード版トライアスロンで、日本代表として活躍
- 2023年度のオフロード版トライアスロン「エクステラ」の日本ランキングで1位を獲得し、2024年9月28日にイタリアで開催される世界選手権に出場
- トライアスロンでも山形県代表に選出され、2024年10月11-15日の佐賀国体に出場
- パラトライアスロンナショナルチームのガイドとして視覚障害選手の伴走としても活躍



【概要】

山形大学大学院有機材料システム研究科 博士前期課程2年生 色川岳宏さん（高橋辰宏研究室 「リチウムイオン電池に関する研究」をテーマとしている。博士後期課程受験予定）は、競泳とマウンテンバイク競技のバックグラウンドを活かし、研究のみならずスポーツでも世界 No1 を目指す気持ちが芽生え、オフロード版トライアスロン「エクステラ」の大会に2年前から参戦し、2023年度のオフロード版トライアスロン「エクステラ」の日本ランキングで1位（約100名の選手の中から）を獲得。2024年9月28日にイタリアで開催される世界選手権に出場することが決まっている。

また、トライアスロン山形県代表（約50名の選手権大会で1位）にも選出され、2024年10月11-15日の佐賀国体に出場することが決まっている。更に、パラトライアスロン選手の伴走者としても国際レースの転戦などですでに活躍している。

研究とスポーツの両方で世界 No1 を目指す二刀流でチャレンジし、異色の傑出した次世代のグローバルリーダーとなる博士の輩出をと、研究室の指導教員は応援し続けており、その姿は本学学生のみでなく、多くの方に前向きにチャレンジする勇気と元気を与えている。

【指導教員からのコメント】

「イタリアの大自然を満喫しつつ、色川君らしい走りで、力を出し切ってください。
山形から大いに声援を送り続けています。」



※用語解説

エクステラ（XTERRA）：オフロード版のトライアスロンで、大自然の中で行うトライアスロンと異なる魅力を持つ競技名である。1996年ハワイ・マウイ島で生まれた。オープンウォーター、マウンテンバイク、トレイルランニングの3種目を連続して行う距離はコースによって多少変動はあるが、それぞれ Swim：1500m Bike：30km Run：10km 程度の距離で設定され、競技時間は2時間半～3時間ほどになる。現在、世界16か国で年間150レースの大会が開かれている。トライアスロンはオリンピック種目になっているが、エクステラはオリンピック種目になっていないがワールドシリーズ化している。

お問い合わせ

学術研究院教授 高橋辰宏（主指導教員 有機材料システム分野 担当）
TEL 0238-26-3585 メール effort@yz.yamagata-u.ac.jp
大学院博士前期課程2年 高橋辰宏・野澤恵理花研究室 色川岳宏
TEL 0238-26-3047 メール t231553m@st.yamagata-u.ac.jp

令和6年(2024年)8月1日

「しなやかに」そだつ・そだてる、「豊かに」つなぐ・つながる 教師の育成プログラムの開発 ～地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業（文科省）に採択～

【本件のポイント】

- 地域教育文化学部児童教育コース学校推薦型選抜Ⅱ（山形県小学校教員希望枠）合格者を対象とした特別教育プログラムの実施
- 山形県教育委員会との連携、教員経験のあるファシリテーターの参画
- 特別教育プログラムで身につく力
 - ・ 「ちゃんとしなきゃ」を手放して教師として「成し遂げたい志」を育てる力
 - ・ 教師として「成し遂げたい志」の実現に向かう力
 - ・ 地域ぐるみで子どもも大人もともに学びあうコミュニティづくりに関わる力



【概要】

地域教育文化学部児童教育コースでは、令和7年度入試より学校推薦型Ⅱ（山形県小学校教員希望枠）を導入する予定です。本入試の合格者を対象とした特別教育プログラムも同時に実施され、この取り組みについて「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業（文科省）」に採択されました。本特別教育プログラムは「『しなやかに』そだつ・そだてる、『豊かに』つなぐ・つながる教師の育成」を目標としており、山形県教育委員会との連携のもと、県内の教育課題に即した教員養成を行うものです。山形県教育委員会指導主事や教員経験のあるファシリテーターなどによる山形県の教育課題に関わる実践的な少人数学習とメンター教員によるコーチングを行う等の特色ある教育プログラムを目指します。

【背景】

教師不足が全国的な課題となっていますが、特に山形県は教員採用試験における志願倍率も含め、深刻な状況になっています。この状況を改善し、山形県の教育課題に対応できる教師を育成するために地域教育文化学部児童教育コースでは、令和7年度より学校推薦型選抜Ⅱにおいて山形県小学校教員希望枠入試を実施し、県内の小学校教員を目指す学生を受け入れ、特別教育プログラムによって県内の教育課題に対応できる教師の育成を行うことになりました。本事業で取り組む主な課題としては、子どもたちと教師・親・地域の大人との間のコミュニケーションの希薄化や価値観の乖離の問題が挙げられます。その解決のためには、学校を中心とした地域学校協働活動の推進を通して立場や年齢の違いによらずすべての人々が互いに学び合い、生涯にわたって成長し続ける成長型コミュニティを地域に創生する必要があります。

【特別教育プログラムについて】

令和7年度より実施する特別教育プログラムでは「『しなやかに』そだつ・そだてる、『豊かに』つなぐ・つながる教師の育成」を目標とし、山形県教育委員会との連携のもと、(1)「ちゃんとしなきゃ」を手放して教師として「成し遂げたい志」を育てる力、(2)教師として「成し遂げたい志」の実現に向かう力、(3)地域ぐるみで子どもも大人もともに学びあうコミュニティづくりに関わる力を身につけます。大学・教育委員会・NPO等が連携して地域社会の中で質の高い教員養成を行う活動を通して学校を核に持続可能な地域学校協働活動を推進することで、学校・地域・企業・NPO等が連携する成長型コミュニティ創生につなげることを目的とします。

お問い合わせ

地域教育文化学部事務室

TEL 023-628-4304

メール yu-kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

取組名：成長型コミュニティ創生につながる地域学校協働活動推進のための質の高い教員養成事業

教員養成・研修の やまがたモデル構築

山形県教育委員会

次世代教員養成研修
プロジェクトチーム

高校生向け

小学校教員体験セミナー

山形県小学校教員志望枠入試



コーディネーター

地域学校協働活動活性化のスターター としての教員養成システム構築

山形大学地域教育文化学部



特別プログラム専門委員会

社会教育施設

総合型地域
スポーツクラブ

文化団体

特別プログラム

1年次「地域教育実践演習Ⅰ～Ⅳ」

2年次

3年次

4年次

学級ファシリテーション実践講座

地域課題の理解
外国語・算数授業力向上講座学校視察
複式学級運営講座ICT活用能力講座
インクルーシブ教育体験

教育データ分析講座

コーチング面談
大学での学習目標設定

基礎実習の目標設定

本実習の目標設定

教員採用後の目標設定

地域の教育課題対応力の習得

生涯発達理論に基づく目標設定

授業力向上の基礎知識を得る

地域とのつながり方を知る

地域の教育課題解決の提案

学生グループの
リーダー
として活動

地域の教育課題解決への取り組み

生涯発達理論に基づく目標再設定

児童教育コース科目
(特別プログラム生必修)

「教職論」

「外国語の基礎」

「教育学」

「算数の基礎」

「生涯学習論」

「地域社会とファシリテーション」

「フィールドプロジェクト」

連携・協働
事業提案

「地域学校協働インターンシップ」

「教職実践演習」

多様な学び方支援フェスタ

放課後等
デイサービス

適応教室

フリースクール

学童保育

放課後
子ども教室子育て・不登校
支援NPO等

学校

教員採用における大学推薦の枠組みの検討

教師としての成長・発達の追跡調査

子どもの個性を尊重した協働学習のできる
教員として学級ファシリテーションを推進地域連携のできる教員として
地域学校協働活動を推進

学校運営協議会

企業

1. 第7次山形県教育振興計画（骨子 案）「ウェルビーイングを目指し、多様性あふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」に貢献する教員養成のための2つの目標：①「しなやか」にそだつ・そだてる教師 ②「豊か」につなぐ・つながる教師 の育成

2. 山形県が抱える課題の所在：チャッター※のマイナス面を感じ取る人びとの増加

※チャッター：心の中で無意識に循環するネガティブな思考（例：「ちゃんとしなければ」「早くしなければ」「失敗や間違いはいけない」「我慢しなければいけない」「わがままを言うてはいけない」「みんなに合わせなければいけない」など）

教師になると...子どもの失敗や間違いを責める、言う通りにしない子どもを許せない、自分の指導方法の説明ができない→理不尽な指導によって**子どものワクワク感を抑え込んでしまう**



チャッターに縛られていると...「失敗や間違いはいけない」、「わがままを言うてはいけない」、「みんなに合わせなければいけない」→失敗は恥ずかしいから隠す、本当にやりたいことを我慢する、周囲に表面的に合わせて行動する

大人になると...他者の失敗や間違いを責める、失敗を恐れて挑戦できない、自分の正しさを主張して多様性を認められない→協動的なつながりを失い、互いに監視し合うことで**社会のワクワク感を抑え込んでしまう**



不登校・引きこもり

教員が非難される側になったことによる教員不足

監視される側から監視する側へ・非難される側から非難する側への移動



ネット社会や大都市への移動



3. 学校を含む地域社会全体のウェルビーイングを目指して（特別教育プログラムの主な構成）

①「しなやか」にそだつ・そだてる教師 の育成

しなやかにそだつ：教師を目指す学生が自身のチャッターを克服しながら、自分らしく生涯成長できる教師になる志を育てるための科目群

- ◎1年次「教職論」：チャッターの自覚、発達課題を踏まえた目標設定
- ◎1～4年次「教職キャリア形成I/II」：定期的なコーチング面談によるチャッターと発達課題の克服状況の確認および目標の再設定

しなやかにそだてる：学級ファシリテーション演習により身につけた安心安全な話し合いの場づくりの力の土台の上に、山形の教育課題に取り組むために必要とされる知識・技能を習得するための科目群

- ◎1～2年次「地域教育実践演習I/II」：学級ファシリテーション基礎講座、地域課題の理解と教材化、学校視察とリフレクション、ICT活用能力講座
- ◎3～4年次「地域教育実践演習III/IV」：学級ファシリテーション実践講座、教科授業力向上実践講座、複式学級運営講座、インクルーシブ教育体験、教育データ分析講座



②「豊か」につなぐ・つながる教師 の育成

豊かにつなぐ：学校および地域学校協働活動の課題解決プロジェクトへの参画および地域の学童保育、適応教室、フリースクール、放課後子ども教室、子育て・不登校支援NPOなどが参加する「多様な学び方支援フェスタ」の企画運営を通して地域の多様な人びと、地域の多様な組織・機関・NPOや企業などとのつながり方を知るための科目群

- ◎3年次「フィールドプロジェクト」
- ◎4年次「地域学校協働インターンシップ」

社会教育士取得を推奨

豊かにつなぐ：学校および地域学校協働活動でのインターンシップを通して、子どもたちと地域の多様な人びと、地域の多様な組織・機関・NPOや企業の人びとをつなぐ経験をするための科目群

- ◎3年次「フィールドプロジェクト」
- ◎4年次「地域学校協働インターンシップ」



ワクワク感を取り戻す

ワクワク感を築く

ワクワク感を広げる

志に向かうことで「周囲の共感→応援・協力を得る→探究・挑戦に向かう」の循環を生み出す

失敗や間違いと向き合って探究・挑戦を続けながら子どもたちや地域の人びとと向き合う

地域社会の人びとと共に成長型コミュニティを築いていく

令和6年（2024年）8月1日

プログラミング学習「paizaランクチャレンジ」を国立大初導入 ～地域に貢献できる高度情報理系人材を輩出～

【本件のポイント】

- 山形大学理学部では、「paizaラーニング 学校フリーパス」（※1）の導入を開始します。
- ユーザーのプログラミングスキルを6段階で評価する「paizaスキルチェック」を利用し、学生の学習動機形成を目的に、取得ランクとチャレンジ回数上位者を表彰する「paizaランクチャレンジ」（※2）を国立大学としては初めて開催します。
- 理学部学生のプログラミングスキルを底上げすることで、地域に貢献できる高度情報理系人材の輩出が期待できます。



【概要】

山形大学理学部では、IT エンジニア向け転職・就職・学習プラットフォーム「paiza（パイザ）」を運営するpaiza 株式会社（東京都港区、代表取締役社長/CEO 片山良平）の協力のもと、このたび新たに山形大学理学部の学生に「paiza ラーニング 学校フリーパス」（※1）の導入を開始します。また、ユーザーのプログラミングスキルを6段階で評価する「paiza スキルチェック」（※2）を利用し、学生の学習動機形成を目的に、取得ランクとチャレンジ回数上位者を表彰する「paiza ランクチャレンジ」を国立大学としては初めて開催します。

山形大学理学部では、データサイエンス、数学、物理学、化学、生物学、地球科学の6つのコースカリキュラムの中から一つを選択し、自身の専門性を高める教育をしております。その中で、データサイエンスだけではなく、データ解析・実験自動化・情報学との融合的研究など、多くの分野においてプログラミングスキルは現代科学を支える基盤となっています。この度、プログラミング初学者から経験者まで幅広い層を対象とした教材が整備されている「paiza ランクチャレンジ」を実施することで、理学部学生のプログラミングスキルを底上げするとともに、地域に貢献できる高度情報理系人材を輩出していきます。また、令和7年度から設置される数理情報システム専攻へ進学する学生のプログラミングスキル向上につながることが期待されます。

<代表取締役社長/CEO 片山良平コメント>

国立大学では初めて「paiza ランクチャレンジ」を実施することとなりました。どのような専門性を学ぶ学生であっても、プログラミングやITのスキルを磨ける環境を作っていくことが、今後の日本にとって重要だと考えています。今回、多様な専門コースを持つ山形大学理学部の学生へ、この機会を提供できたことを非常に嬉しく思っております。

この取り組みを今後も増やしていき、日本のIT人材不足の解消に寄与できる専門人材育成の一助になると同時に、学生の挑戦への背中を押し、自分自身の新しい可能性にワクワクできる環境を提供できていれば嬉しく思います。

■paizaについて

paizaはITエンジニア向け転職・就職・学習プラットフォームです。オンラインでプログラミングテスト「paizaスキルチェック*」を受験してスキルを証明し、それを使って転職・就職する独自のサービスで、2024年7月現在、paizaの登録者数は約75万人。4,400社を超える企業が採用に利用しています。「paizaスキルチェック」の総受験回数は2,760万回（2024年7月現在）に達しています。

「paiza転職」は、ITエンジニアの“スキルを可視化”し、実力重視で企業とマッチングするITエンジニア向け転職サービスです。そのほか、学生向け就職サービス「paiza新卒」、未経験、若手エンジニア向け転職サービス「EN:TRY」、および転職・就職直結型のプログラミング学習サービス「paizaラーニング」を展開。現役エンジニアの転職はもちろん、「paizaラーニング」で学んだ後に「スキルを可視化」して転職、就職する例も多数生ま

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

れています。

「世界を変えるのは、異能だ。」と考える paiza では、「異能をのばせ。」をコンセプトに「人と企業に絶え間ない成長を促す唯一無二のプラットフォーム」作りを行っています。今後ともこのプラットフォームを通じて、IT 人材を採用する企業、IT 人材を育成する教育機関、IT 人材として活躍する・活躍を目指す個人に役立つサービスの提供を行ってまいります。

■会社概要

- ・社名： paiza 株式会社
- ・代表者： 代表取締役社長/CEO 片山 良平（かたやま りょうへい）
- ・資本金： 392,515 千円（資本剰余金含む）
- ・設立： 2012 年 2 月 13 日
- ・許認可： 有料職業紹介事業許可 13-ユ-305439
- ・URL： <https://www.paiza.co.jp>

※用語解説

（※1）「paiza ラーニング 学校フリーパス」とは

月額 1,490 円（税込）の「paiza ラーニング」を小・中・高・大学・専門学校向けに無料で提供するサービスです。

「paiza ラーニング」は動画と問題で学べる、就職・転職直結型オンラインプログラミング学習サービスで、全 260 レッスン、2,100 学習動画、4,500 問の演習課題が利用できます。「学校フリーパス」ではそれらのコンテンツをすべて無料で利用できます。受講者は 6 段階で評価されるプログラミングスキル評価システム「paiza スキルチェック」を受け、その結果をもとに自身のスキルにあった学習をすることができます。2019 年 8 月の提供開始以来、高校、大学、専門学校を中心に全国の学校で利用されており、2023 年度は申し込み学校数が 574 校、クーポン発行数が 12 万人を突破しました。

URL： https://paiza.jp/works/lp/free_pass

（※2）「paiza スキルチェック」とは

paiza が特許を取得したプログラミングスキル評価システム。および paiza で利用しているプログラミングスキルチェック全般をさす。

URL： <https://paiza.jp/>

お問い合わせ

学術研究院教授 並河英紀（理学部主担当）

TEL 023-628-4589 メール nabika@sci.yamagata-u.ac.jp

有償の学習サービスを学校向けに無償提供

動画プログラミング学習サービス



1,490円/月
(税込)

無償提供



2023年度

- ・ 申込学校数 **570校**
- ・ クーポン発行 **120,000人**

【利用実績校】※一部

京都大学、東京工業大学、横浜国立大学、大阪公立大学、立命館大学、中央大学、日本大学、東京工科大学、山梨大学、同志社大学、近畿大学、龍谷大学、東京電機大学、関西大学、京都女子大学、東北大学病院、灘高等学校、筑波大学附属高等学校、広尾学園中学高等学校、埼玉県立春日部高等学校、大阪府立高津高等学校、福島県立福島高等学校、静岡県立浜松北高等学校（全日制）、中央大学杉並高等学校

学習と可視化により実力重視の就職・転職を実現



初学者から上級者まで動画と問題演習でスキルアップ

講座（動画と演習）

約3分の動画と演習課題
2000以上の動画と問題
主要な言語はカバー



レベルアップ問題集

問題を解いてスキルアップ
演習問題が2000問以上
様々なケーススタディ



標準出力メニュー

初学者の方におすすめのメニューです。多くのスキルチェック問題の標準出力処理が書けるようになります。たとえば、罫線入り九九の表の出力などを学べます。

★ 全問解答コード例あり

はじめる



標準入力メニュー

初学者の方におすすめのメニューです。複数行・複数列での標準入力の受け取りなど、多くのスキルチェック問題の標準入力処理が書けるようになります。

★ 全問解答コード例あり

はじめる



論理演算メニュー

CランクやBランクの人にオススメのメニューです。多くのスキルチェック問題の論理演算処理を書けるようになります。



文字列処理メニュー

初学者でデータの型について学び始めたくらいの方におすすめのメニューです。問題をクリアしていくことで文字列の検索・

スキルチェック

就職にもつながるテスト
S～Dランクがある
社会人エンジニアと同基準



高度な実装スキルとアルゴリズムの知識
エンジニアのエキスパート職レベルに相当します。

3%



高度な実装スキル
エンジニアチームのリーダーレベルに相当します。

7%



実用的な実装スキル
エンジニアチームのメンバーレベルに相当します。

17%



基本的な実装スキル
新人エンジニアはCランクを取得しましょう。

23%



基礎知識習得レベル

50%

スキルチェックのランクと量で上位者を表彰する学習応援企画

プログラミングスキルを伸ばそう！ 国立大学初！

パイザ
山形大学理学部paizaランクチャレンジ

月1,490円が
無料！

企業から
スカウトも！

優秀者には
表彰も！

あなたのレベルにあったプログラミング学習に
無料でチャレンジできる！

入賞者にはAmazonギフトカード（1,000円分）プレゼント！

	トロフィー賞		ランク賞
	上位5名		上位10名
期間内にプログラミングスキルチェック をクリアした回数が多い人を表彰		終了時のpaizaランク上位者（Bランク以上）を表彰 （同ランクの場合はトロフィー数で決定）	

令和6年（2024年）8月1日

めーかーずフェスタ2024 de 米沢を開催します！ ～10月5日（土）・6日（日）に米沢市伝国の杜にて～

【本件のポイント】

- 10月5日（土）・6日（日）、米沢市の伝国の杜にて「めーかーずフェスタ2024 de 米沢」を開催します。
- 「めーかーずフェスタ」とは、身近で新しいテクノロジーをユニークな発想で使いこなし、発明と創造が一杯で機知に富む「メーカー」が集い、発表や展示を行うイベントです。
- 本イベントでは、米沢の地で未来のものづくり・クリエイター達が一堂に会し、それぞれの作品を発表・展示を行います。



【概要】

山形のものづくりの拠点となる米沢市で、山大版「めーかーずフェスタ」を開催します。めーかーずフェスタとは、身近で新しいテクノロジーをユニークな発想で使いこなし、発明と創造が一杯で機知に富む未来の「メーカー」「クリエイター」達が集い、発表や展示を行うイベントです。本イベントでは、未来のものづくり・クリエイター達が一堂に会して、ロボット・マイコン・電子工作・3D プリンタ、VR/MR/AR（Unity、マイクラ、メタバースなど）・アバター・生成AI、IoT/ICT、地域づくり（衣食住、3R、等）・社会実装（e-sports、プロジェクションマッピング、観光・見守りを支える技術、等）、等々、熱意のこもった作品や成果を、米沢の地で自由闊達に発表展示・説明を行います。本企画は、メタバースなどのVR技術やロボット等を活用し、学生・教員・研究者が垣根を越えて集まり、地域に根ざした新しいコミュニケーション支援システムを開発する拠点として活動している山形大学認定研究グループ『ナセバース』と米沢ものづくり振興協議会との共催、米沢市の後援で開催します。

【背景】

インターネット上やゲームの世界など、現実とは異なる空間に存在する3次元の仮想空間「メタバース」は、ここ数年において世界中で関心が集まってきており、ビジネスや教育・観光といった分野で導入の検討が進められています。また、対話が可能なロボットやペットロボット等を駆使した見守りなど各種支援システムが開発・運営されています。本学でも、学生サークルであるVR（バーチャル・リアリティ）部において「メタバース」を活用したバーチャルオープンキャンパスやケヤキ並木の3Dデータ化、といった活動がおこなわれています。これら「メタバース」やICT・ロボット等を活用し、アフターコロナ時代の教育や介護、他のさまざまな分野で児童から現役世代・高齢者まで幅広い世代の地域の人たちの交流を深める場をつくろうと、学年・身分・学部学科の垣根を越えた学生・教員・研究者が結集して「ナセバース」研究拠点を立ち上げ、2022年6月2日山形大学認定研究グループの承認を受けました。今まで培ったロボットやメタバース技術を融合し活用することで、世代間・年代間をつなぐ新たなコミュニケーションツールによる仕組みづくりを目指しており、その活動の一環として、米沢市内の小学生・中学生・高校生と連携したイベントを企画したものです。

【開催目的】

未来のものづくり・クリエイター達が一堂に会して、ロボット・マイコン・電子工作・3D プリンタ、VR/MR/AR（Unity、マイクラ、メタバースなど）・アバター・生成AI、IoT/ICT、地域づくり（衣食住、3R、等）・社会実装（e-sports、プロジェクションマッピング、観光・見守りを支える技術、等）、等々、熱意のこもった作品や成果を、米沢の地で自由闊達に発表展示し、交流を通じて互いの興味を喚起し、ものづくり技術のさらなる向上と人的ネットワークの形成、新機軸の創造に資する事を目的としています。

【今後の展望】

今年度は2回目の開催となりますが、今年度は米沢ものづくり振興協議会との共催、米沢市が後援として参画することになりました。このイベントをきっかけに、大学と地域をつなぐ取り組みとして展開していこうと考えています。



山形大学認定ナセバース
研究グループ



開催場：伝国の杜

入場料：無料

10/5 ▶ 6 (土10:00~16:00)
(日10:00~15:00)

出展者募集中!



Ver. 3.0

お問い合わせ
学術研究院

横山 道央 (電子デバイス工学)
原田 知親 (電子デバイス工学)

TEL: 0238-26-3315 メール: makerfesta-yonezawa-users-group@yz.yamagata-u.ac.jp

問い合わせ先
QRコード





山形大学認定ナセバース
研究グループ

MAKERS

めーかーず × フェスタ

FESTA

2024 de 米沢

開催場：伝国の杜

入場料：無料

出展者募集中!

10 / 5 ▶ 6 (土10:00~16:00)
(日10:00~15:00)



山形のものづくりの拠点となる米沢市で、 「めーかーずフェスタ2024 de 米沢」 を開催します！！

めーかーずフェスタとは？

身近で新しいテクノロジーをユニークな発想で使いこなし、発明と創造が一杯で機知に富む未来の「メーカー」「クリエイター」達が集い、発表や展示を行うイベントです。

本イベントでは、未来のものづくり・クリエイター達が一堂に会して、ロボット・マイコン・電子工作・3Dプリンタ、VR/MR/AR（Unity、マイクラ、メタバースなど）・アバター・生成AI、IoT／ICT、地域づくり（衣食住、3R、等）・社会実装（e-sports、プロジェクションマッピング、観光・見守りを支える技術、等）、等々、熱意のこもった作品や成果を、米沢の地で自由闊達に発表展示・説明を行います。

イベント予定

1F：展示ブース（15～20を予定）

2F：体験・参加型ブース

- ・魔改造の杜（仮称）：
改造対決

- ・e-sportsブース：

FPSゲーム・格闘ゲームの体験および展示

- ・ワークショップ：

プログラミング体験

出展申込先
QRコード



問い合わせ先
QRコード



主催：山形大学認定ナセバース研究グループ
共催：米沢ものづくり振興協議会
協賛：株式会社 森の学校、山形大学VR部
武将の街 米沢eスポーツ振興会
後援：米沢市

令和6年（2024年）8月1日

日本地質学会第131年学術大会（2024山形大会）開催

【本件のポイント】

- 小白川キャンパスにて、表記大会を9/8-10に開催します（山形大学後援）
- 日本地質学会は地球科学関係の国内有数の学会です。本大会には約650名の参加者が見込まれます。497件の発表に加え、小中高校生によるジュニアセッションも開催されます。9/7と11-12には各地への巡検、山形城と石材見学会も行われます。
- 山形テルサにて、入場無料の“市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」”（9/8）及び“地質情報展2024やまがた「山地と盆地をつくる大地のヒミツ」”（9/6-8）が開催されます。



【概要】

日本地質学会は100年以上の伝統をもつ国内有数の地学関係の学会で、年に1回学術大会を開催しています。今年は9/8-10に学術講演会が小白川キャンパスの基盤教育棟で開催されます。学会員に限らず登録すれば聴講できます。参加登録料がかかりますが、学部生は非会員であっても無料です。参加登録は8/20の18時締切です。9/7と10-11には巡検が、9/7には山形城と石材見学会も開催されます。

また、9/8には山形テルサ1F大会議室にて市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」（参加無料）、9/6-8には山形テルサ3Fアプローチにて産業技術総合研究所と日本地質学会などが主催する地学の普及活動である“地質情報展2024やまがた「山地と盆地をつくる大地のヒミツ」”（参加無料）が開催されます。

皆様の本学会へのご参加を心よりお待ち申し上げます。詳しくは本大会ホームページをご覧ください。

<https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/geosocjp131>

【日本地質学会第131年学術大会】

日本地質学会は、地質学の発展や普及を目指して1893（明治26）年に創立された伝統のある会員数約5千名の学会です。「地球を知る」を旗印に、日本列島の成り立ちや資源探査、環境問題、自然災害等の課題に取り組む研究者や関係職種が参集して、年に1回学術大会を開催しております。山形での開催は1986年以来38年ぶりです。9/8-10の学術講演会（9/8のジュニアセッションを含む）の他に、蔵王、山寺、鳥海山などのへ巡検が開催されます。こちらも非会員でも参加登録可能ですが、締め切りが8/1の18時です。一般市民優先のコース（鳥海山：参加費千円）もあります。9/7 13:00-15:30には山形城と石材見学会（参加無料、要事前申込）が開かれます。

<https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/geosocjp131/content/excursion>

【市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」】

9/8 13:00～15:00、山形テルサ 1F 大会議室（入場無料、事前申込不要）で開催。どなたでもご参加いただけます。柳澤文孝山形大学名誉教授による“「樹氷（アイスモンスター）」から見る地球環境の変化”と八木浩司山形大学名誉教授による“出羽三山信仰の背景としての自然景観”の講演が行われます。

<https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/geosocjp131/content/gyoji>

【地質情報展2024やまがた「山地と盆地をつくる大地のヒミツ」】

9/6-7 9:30～17:00（入場16:30まで）、9/8 9:30～16:00（入場15:30まで）、山形テルサ 3F アプローチ（入場無料、事前申込不要）で開催。山形を象徴する山と盆地をつくる地質や火山、地震の活動、資源などについて研究者がわかりやすく展示・解説します。石割り体験、火山噴火実験、水路堆積実験ほかの実験・体験コーナーでは楽しみながら地質を学べます。

<https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/geosocjp131/content/gyoji>

お問い合わせ

学術研究院教授 伴雅雄（火山学）／理学部主担当

TEL 023-628-4642 メール ban@sci.kj.yamagata-u.ac.jp



日本地質学会第 131 年学術大会

The 131st Annual Meeting of the Geological Society of Japan

September 8-10, 2024 Yamagata Univ.

後援：山形大学

小白川キャンパス基盤教育棟

○9/8-10：学術講演会（ジュニアセッションあり）

能登半島地震、日本列島や世界各地の地質岩石、海洋、資源探査、環境問題、文化地質、ジオパーク等

*学会員に限らず聴講可能（登録必要8/20×切）

*学部生は非会員であっても無料

山形及び周辺各地

○9/7と10-11：巡検（要登録 8/1×切）

9/7：山形城と石材見学会（参加無料、要事前申込）

テルサにて

○9/8：市民講演会「樹氷と出羽三山を知る」（参加無料）

○9/6-8：地質情報展2024やまがた「山地と盆地をつくる大地のヒミツ」（参加無料）

皆様の本学会へのご参加を心よりお待ちしております。

令和6年(2024年)8月1日

「蔵王高層気象着氷対策研究所」を囲んでいた石積みの南側の一部が残っていたことが確認されました

【本件のポイント】

- 昭和19年11月に地蔵岳山頂に「東北帝国大学 蔵王高層気象着氷対策研究所」が開設され、昭和20年8月15日まで航空機の着氷防止・着氷ゾンドの実証試験・高層気象などの研究が行われました。
- 空中写真(米軍・国土地理院)・Google Earth・Google Map等から「蔵王高層気象着氷対策研究所」の位置が特定されました。
- 現地調査によって「蔵王高層気象着氷対策研究所」を囲んでいた石積みの南側の一部が残っていることが確認されました。



「蔵王高層気象着氷対策研究所」を囲んでいた石積みの南側の一部

【概要】

昭和15年に陸軍に接収された「蔵王小屋」は、昭和19年11月に地蔵岳山頂に「東北帝国大学 蔵王高層気象着氷対策研究所」として移築されました。研究所では昭和20年8月15日まで航空機の着氷防止・着氷ゾンドの実証試験・高層気象などの研究が行われました。

昭和22年9月に米軍によって撮影された空中写真から「蔵王高層気象着氷対策研究所」の位置が特定できました。国土地理院の空中写真・Google Earth・Google Map等の調査から研究所等の変遷が明らかとなり、研究所の跡が残っている可能性が見つかりました。現地調査によって「蔵王高層気象着氷対策研究所」を取り囲んでいた南側の石積みの一部が残っていることが確認されました。

【1. これまでの経緯】

昭和11年、高湯温泉組合によって蔵王山中腹(現パラダイスゲレンデ)に「蔵王小屋」が建設されました。昭和15年、「蔵王小屋」は陸軍に接収されて雪中行軍の基地、航空機への着氷防止の研究、山形測候所所員の訓練が行われました。昭和18年9月、地蔵岳山頂に「蔵王山測候所」が開設され、山形測候所の所員は昭和22年9月まで気象観測を行っていました。一方、「蔵王小屋」では、昭和18年12月から昭和19年2月まで東北帝大の加藤助教授によって航空機への着氷防止の研究が行われました。

昭和19年8月、斎藤報恩会による「蔵王小屋」の移築工事への助成が決まりました。「蔵王小屋」は昭和19年9月に解体され、昭和19年11月に地蔵岳山頂へ移築工事が行われました。昭和19年12月、「東北帝国大学 蔵王高層気象着氷対策研究所」が開設され、東北帝国大学の加藤助教授による飛行機凍結防止に関する研究や高層気象の研究、陸軍気象部による「着氷ゾンド」の実証試験などが行われました。昭和20年8月15日の終戦に伴って軍から資料等を破棄するようにとの命令が来たことから、研究所内にあった設備は撤去され、研究は終了しました。

昭和20年代後半に「蔵王山測候所」と「東北帝国大学 蔵王高層気象着氷対策研究所」の間に無線通信用の建物と鉄塔が作られました。一方、研究所は昭和40年頃まで「東北大学 地蔵三角小屋」との名称で避難小屋として使われていましたが、昭和45年頃に測候所と共に撤去されました。無線通信施設は平成7年頃に撤去されました。

戦中・戦後「山形測候所」にお勤めであった榑野栄司氏のお話から「蔵王山測候所」を北西南から囲んでいた防風石垣の一部が残っている可能性が示唆されました。令和3年6月の現地調査によって「蔵王山測候所」を囲んでいた石垣の西側の一部が見つかりました。一方、「蔵王高層気象着氷対策研究所」についてご指摘はありませんでした。

(お問合せ先)

山形大学蔵王樹氷火山総合研究会 副会長
(旧山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 副所長)
山形大学名誉教授 柳澤文孝(環境科学)
メール icemonster.white(at)gmail.com

昭和22年9月に米軍によって撮影された空中写真から「蔵王高層気象着氷対策研究所」の位置が特定できました。また、国土地理院の空中写真等の調査から測候所・無線通信施設・研究所の変遷が明らかとなると共に、Google Earth・Google Map等の調査から「蔵王高層気象着氷対策研究所」の跡が残っている可能性が見つかりました。現地調査によって、「蔵王高層気象着氷対策研究所」を東西南北から取り囲んでいた石積みの南側の一部が残っていることが確認されました。

【2. 蔵王高層着氷対策研究所についての調査】

2. 1 写真および絵葉書

昭和20年ころに棚野栄司氏が撮影された写真から「蔵王高層気象着氷対策研究所」が写っている写真(図1)が、絵葉書の調査から赤い三角屋根の「蔵王高層気象着氷対策研究所」が見つかりました(図2)。

2. 2 空中写真・Google Map・Google Earth

昭和22年9月17日に米軍撮影によって撮影された空中写真(図3)から「蔵王高層気象着氷対策研究所」の位置が特定されました。国土地理院の空中写真、Google Map・Google Earth等(図3～図11)から測候所・無線通信施設・研究所の変遷が明らかとなりました。現在までに測候所・無線通信施設・研究所は撤去されましたが、それらの場所に新たな施設が作られていたことはありませんでした。また、空中写真(図5)から、撤去された研究所の場所に東西南北の四角い跡が認められました(南北約10m、東西約7m)。一方、Google Earth(図10・図11)で地藏岳の中央付近に緑色の塊(高まり)が認められました。緑色の塊の南端は東西南北の四角い跡(図5)の南端と一致しており、緑色の塊の北側は遊歩道となっています。以上から、緑色の塊には「蔵王高層気象着氷対策研究所」の何らかの跡が残っている可能性が考えられました。

2. 3 現地調査

現地調査によって草で覆われた石積み(長さおよそ10m、幅およそ50cm、高さ40-50cm、一部不連続)が確認されました(図12～図15)。この石積み位置は、空中写真(図5)に見られた東西南北の四角い跡の南端、および、Google Earth(図10、図11)で見られた地藏岳の中央付近の緑色の塊の南端にあたります。

さて、「蔵王高層気象着氷対策研究所」の写真(図1、図2)からは明確な石垣は認められませんでした。「蔵王高層気象着氷対策研究所」は地藏岳の山頂付近(およそ1760m)にあったことから北西からの強風を防ぐために測候所の北・西・南側に高さ1-1.5mの石垣が作られていました。一方、「蔵王高層気象着氷対策研究所」は測候所の風下(測候所の南西およそ50-60m)にあり、標高も数m低い位置にあります。研究所への風は地藏岳山頂および測候所によって遮られることから、堅固で背の高い石垣は必要なかったと考えられます。今回見つかった石積みは、研究所を東西南北から取り囲んでいた簡易で背の低い石積みの南側の一部と推定されます。

一方、空中写真で見られた四角い跡のうち北東西からは石積みは見つかりませんでした。地藏岳には遊歩道が整備されていることから(図10、図11、図17)、「蔵王高層気象着氷対策研究所」の東西北にあった石積みは遊歩道の整備工事の際に撤去されると共に、石積みは遊歩道の両端の石材として利用されたのではないかと推測されます。なお、見つかった石積みの周辺には長釘、鍬(かすがい)などが散乱しておりました(図15、図16)。「蔵王高層気象着氷対策研究所」は「蔵王小屋」を解体した木材を流用して作られていたことから、「蔵王高層気象着氷対策研究所」の移設の際に使われていたのではないかと推定されます。



図1 蔵王高層気象着氷対策研究所(奥の三角屋根の建物) 昭和20年ころ(棚野栄司氏撮影)



図2 絵葉書「蔵王山大観」(図 拡大: 赤い三角屋根 1963年ころ 奥が測候所、真中が通信施設、手前の赤い三角屋根が研究所)



図3 1947/09/17 米軍撮影 USA-M475-17 (拡大)
南北の白線は地蔵岳山頂に向かう山道。山頂の左が「蔵王山測候所」、右が「蔵王高層気象着氷対策研究所」



図6 空中写真 1976/10/13 国土地理院 CT07620-C16B-1 拡大 測候所と研究所は撤去され、無線通信施設が残っている



図4 空中写真 1970/09/08 国土地理院 T0708Y-C5A-14 拡大 測候所と研究所の間に無線通信の施設が作られている

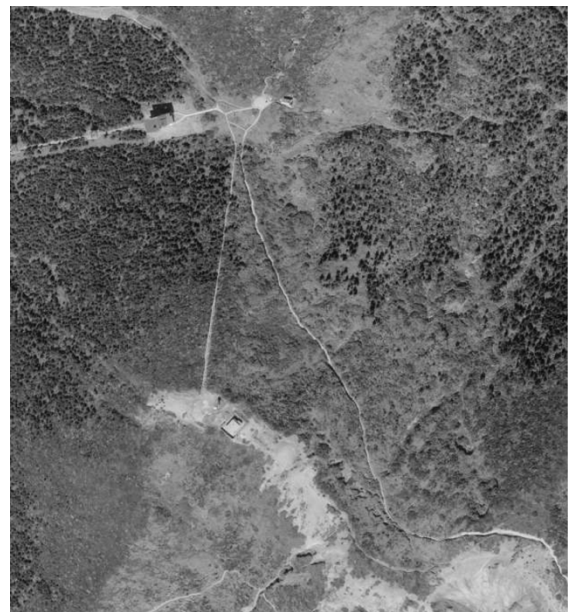


図7 空中写真 1993/09/20 国土地理院 T0931X-C2B-8 拡大 無線通信施設が残っている



図5 空中写真 1970/10/07 国土地理院 T0708Y-C5B-4 拡大 無線通信施設の東側に研究所の四角い跡が見える (南北約10m、東西約7m)

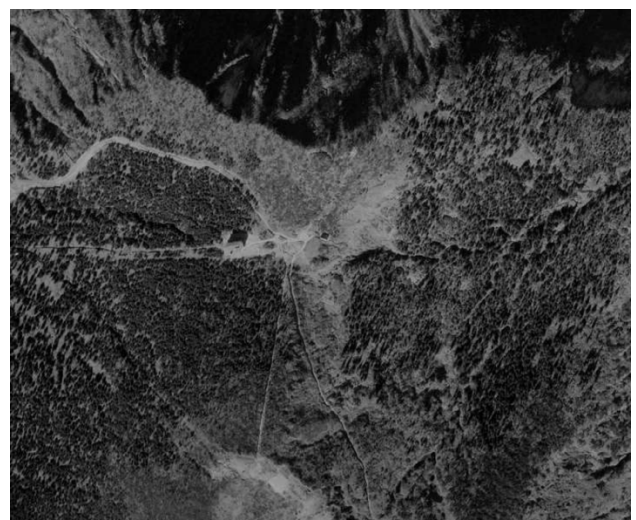


図8 空中写真 1998/10/27 国土地理院 T0983X-C10-19 拡大 無線通信施設が撤去され更地になっている



図9 空中写真 国土地理院 最新 (拡大)



図12 石積み (1)

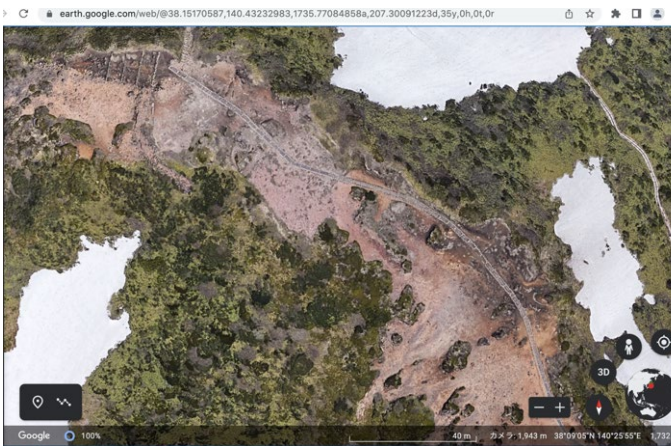


図10 Google Earth 最新 地藏岳の中央付近の緑の部分が研究所の場所と推定される



図13 石積み (2)

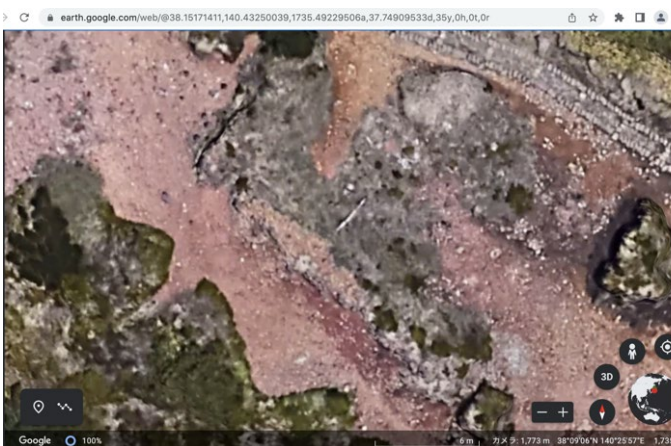


図11 Google Earth 現在 地藏岳の中央付近の緑の部分 (図10の拡大)



図14 石積み (3)



図15 石積みの周囲に長釘・鋌が散乱している



図16 散乱している長釘・鋌（図16拡大）



図17 遊歩道

令和6年(2024年)8月1日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 第3回山形大学異分野交流学会を開催します

本学の先進的研究拠点である YU-COE の研究紹介と、幅広い分野にわたる連携を目指す方々が集うポスターセッションを行います。多くの方の連携に向けた議論へのご参加をお待ちしております。

日 時：2024年8月23日(金)13:00～17:00

会 場：山形大学中央図書館1階（山形市小白川町1-4-12）

※外部駐車場の利用または公共交通機関でお越しください。

2. アフリカ農業従事者の来日研修が山形大学農学部で開始

令和6年8月19日（月）からアフリカ各国の研修生14名が本学農学部で開講する『アフリカ地域稲作収穫後処理コース』研修を受講します。本研修は山形県、鶴岡市、JA鶴岡、秋田県大潟村の協力を得て、稲作における収穫処理や栽培技術の学習に加え、稲刈りや籾摺り・品質検査などの実習、乾燥貯蔵施設、農業機械工場、灌漑施設の見学を行います。

農学部では、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共同でアフリカ諸国を対象とした米生産に関する様々な研修や現地指導を実施してきました。研修最終日に各研修生がそれぞれの国が抱える稲作の収穫後処理に関する課題改善と技術普及プランの発表を行います。

【研修スケジュール等】

★研修期間：令和6年8月19日（月）～9月27日（金）

★参加国：ベナン、ブルンジ、カメルーン、コンゴ共和国、マダガスカル、コートジボワール、ガーナ、ギニア、リベリア、セネガル、タンザニア、トーゴ、ザンビア、エチオピア（14か国）

3. 小学校理科の教育プログラム－スキルアップ講座－を実施します

山形大学地域教育文化学部では、教員の養成・研修の一体的事業として、山形大学と山形県教育センター（山形県教育委員会）および山形市総合学習センター（山形市教育委員会）が協力して、小学校理科の授業を実施するために必要な資質・能力を身に付けることを応援するため、県内の小学校・中学校（理科）教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、別紙（案内）のとおり、小学校理科の授業力を向上させるための教育プログラム－スキルアップ講座－を実施することとしました。

【講座内容】実施日時：令和6年9月11日（水）～

実施場所：山形大学小白川キャンパス、山形市総合学習センター

実施内容：小学校理科の授業力向上に関する様々な活動を実施します。

・理科の授業研究 ・理科の教材研究 ・理科室の管理・運営 ・理科の観察と実験 など

第3回

山形大学 異分野交流学会

2024

8/23 FRI 13:00-17:00

山形大学小白川キャンパス中央図書館(山形市小白川町1-4-12)

※外部駐車場の利用または公共交通機関でお越しください。

スケジュール

- 13:00-13:05 ● 開会あいさつ / 玉手 英利 学長
- 13:05-15:00 ● YU-COE(C)研究発表 / 各拠点リーダー
- 15:00-16:30 ● ポスターセッション
※学内研究者向けに研究費申請、
産学・地域連携、研究支援制度等の
相談ブースを設置します。
- 16:45-17:00 ● 授賞式
- 17:15- ● 懇親会(厚生会館)

参加費無料
(懇親会費2,000円)

教職員、学生、企業、行政、
市民等どなたでも
ご参加いただけます。
お申し込みはこちら▶▶
(<https://forms.office.com/r/RpiJeT3yqq>)



現在、気候変動、食料・エネルギーなどの資源問題をはじめとする様々な地球規模の課題・社会問題が顕在化しており、これらを解決するレジリエントで安全・安心な社会の構築は欠かせません。ここに大学が貢献するには、人間や社会を総合的に理解しながら、課題解決へと向かうべく、分野を超えた「総合知」を創り上げ、活用していく必要があります。

山形大学は、約900人の多様な教員が活躍する総合大学です。あらゆる垣根を越えて、人と人、異なる知と知を“つなぐちから”を発揮し、多様な人々が出会い活躍する「イノベーション・コモンズ」として、山形大学は新たな知を提供していきます。

その分野を超えて共創するための場として、山形大学異分野交流学会を開催します。ここでは、本学の先進的研究拠点であるYU-COEの研究紹介と、幅広い分野にわたる連携を目指す方々が集うポスターセッションを行います。多くの方の連携に向けた議論へのご参加をお待ちしております。

山形大学異分野交流学会実行委員会

お問い合わせ

山形大学異分野交流学会 実行委員会 事務局 (担当/研究情報部 野寺)

TEL 023-628-4839

E-mail yu-k-kenki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



YU-COE(C)研究発表

発表時間	発表YU-COE(C)研究拠点時間	主担当学部／発表者
13:05-13:25	海洋生物由来の強靱な生分解性繊維および不織布研究拠点	工学部 / 宮 瑾
13:25-13:45	熱および光エネルギー制御研究拠点	工学部 / 江目 宏樹
13:45-14:05	難治性難聴に対する新規治療法開発を目的とした国際共同研究拠点	医学部 / 伊藤 吏
14:05-14:25	山形大学医療AI研究拠点	医学部 / 早坂 達哉

ポスターセッション(コアタイム1部14:40-15:30, 2部15:30-16:20)

No.	部	主担当学部	発表者	演 題	キーワード
1	1部	人文社会科学部	大杉 尚之	自殺予防のための SOS 教育推進及び調査研究事業	山形県, 自殺対策, SOSの出し方・受け止め方教育
2	1部	人文社会科学部	小幡 圭祐	地域和算関連資料のデジタルアーカイブ構築と検索可能な和算データベースの融合	和算, デジタルアーカイブ, 山形大学中央図書館
3	1部	人文社会科学部	京井 尋佑	環境問題解決に向けた実証研究ー経済学の観点からー	社会的受容, トレードオフ, 社会ネットワーク, 環境配慮行動
4	2部	人文社会科学部	小林 正法	三位一体オンライン実験	オンライン実験, オンライン調査, オープンデータ
5	2部	人文社会科学部	中島 宏	カルト宗教規制の日仏比較	カルト, セクト, 宗教, 信教の自由, 政教分離
6	2部	人文社会科学部	松本 剛	飛島塩辛からはじめる新たな伝統食の創出 ～未利用魚を利用した「ごちゃまぜ魚醤」の開発	飛島塩辛, 伝統文化, 地域創生
7	2部	地域教育文化学部	小酒井 貴晴	食餌-消化管-身体代謝機能を基盤とした栄養健康トランスレーション研究	山形食文化, 機能性因子, 腸管認識, 腸管内分泌, エネルギー代謝
8	1部	教育実践研究科	鈴木 宏昭	学校DXに基づく次世代理科室モデルの開発	理科室, 学校DX, モデル開発
9	2部	理学部	石井 彩子	輻射-流体シミュレーションによる大気爆発現象からの放射機構解明	輻射輸送シミュレーション, 流体シミュレーション, 衝撃波
10	1部	理学部	岩田 尚能	火星大気の新オン同位体を火星で測定する	火星, 貴ガス, 質量分析
11	1部	理学部	近藤 慎一	分子認識を利用した機能性分子の開発と応用	有機化学, 分子認識化学, デバイス, 環境
12	2部	理学部	ジョルダン・リチャード	A lifetime studying marine biodiversity and phytoplankton evolution	分類, 海洋学, 生物多様性
13	2部	理学部	常松 佳恵	蔵王・吾妻の爆発的噴火における影響範囲の予測	火山灰, 火山岩塊, ハザードマップ, 数値シミュレーション
14	2部	理学部	野村 真未	単細胞生物の家づくり	有殻アメーバ, 形態形成, 藻類, 原生生物, イメージング, 電子顕微鏡, モデリング
15	1部	理学部	伴 雅雄	蔵王山の地球物質科学的研究:最近の進展	蔵王山, 火山, 噴火史, 噴出物, 災害軽減
16	1部	理学部	藤井 翔	レーザー誘起微小気泡の化学	界面反応, マイクロバブル, マランゴニ対流
17	1部	理学部	壺 聡子	造礁サンゴ骨格のバイオミネラリゼーション	造礁サンゴ, バイオミネラリゼーション, 炭酸塩カルシウム, 多形, 共生
18	2部	学士課程基盤教育機構	白石 哲也	飛島魚醤の故地・能登ー漁撈民と魚醤の新たな研究ー	魚醤, 飛島, 能登, 北前船, 漁撈民
19	1部	医学部	石川 恵生	医工連携・産学連携による口腔がん触診モデル開発	口腔がん, 触診モデル, 医工連携, 産学連携
20	2部	医学部	笹原 庸由	山形大学医学部附属病院歯科口腔外科における3Dシミュレーションおよび3Dプリンターの臨床応用	3Dシミュレーション, 3Dプリンター, 顎骨再建, 顎骨骨折
21	1部	医学部	清野 諭	「ちよい足し」で推進!well-beingな地域づくり	ちよい足し, 健康寿命, 身体活動, 社会参加, 食の多様性, 減塩, ナトリウム
22	1部	医学部	鍵水 健也	医学シミュレーション教育の社会実装:地域医療格差解消と健康寿命延伸への学際的アプローチ	シミュレーション, 地域医療, 働き方改革
23	2部	医学部	遊佐 和之	薬剤関連顎骨壊死の成因と治療法開発への展望	薬剤関連顎骨壊死, 細胞分化, 骨再生
24	2部	医学部	横山 龍人	救急搬送された入浴関連有害事象の患者における呼吸障害の検討:単施設後ろ向き研究-hoT spring reSearch in Emergency and critical care)	温泉, 入浴, 呼吸不全, Well-Being, 高齢者救急
25	2部	工学部	大音 隆男	ハイブリッドナノ構造を用いた高輝度赤色光源の開発	LED, ナノ構造, 窒化物半導体, ペロブスカイト
26	2部	工学部	小川 純	ソフトマターを計算資源に-柔らかさの情報科学-	ソフトロボティクス, 3Dプリンティング, 物理リザー計算
27	1部	工学部	江目 宏樹	熱および光エネルギー制御研究拠点	熱, 光, ぶく射
28	2部	工学部	XING Wenjing	ディーブラーニングによる噴流中particleの動的解析	噴流, Particle, ディーブラーニング
29	1部	工学部	関根 智仁	Development of High Performance Wearable Digital Skin Device	Wearable Electronics, Digit al Fabrication, Tact ile Sensor
30	1部	工学部	原田 知親	山形大学ナセバース認定研究拠点のご紹介	ナセバース, コミュニケーションロボット, 学生・企業との協業
31	2部	工学部	原田 知親	多端子MOSFET素子によるセンサ・集積回路設計の共通プラットフォーム化とIoT分野への応用	集積回路, マルチセンサーデバイス, IoT
32	1部	工学部	松井 弘之	ChatGPTを活用したラボオートメーション	実験, リモート制御, プログラミング
33	1部	農学部	木村 ゆり	イネ科植物におけるリグニン生合成ネットワークの進化	リグニン, 生合成, 進化
34	1部	農学部	五領田 小百合	農からおいしく健康をつくる ～山形から日本各地そして世界へ～	社会実装, 多分野連携, 多業種連携, 行動変容, 幸せ
35	2部	農学部	佐藤 智	生ゴミ資源化ヤマダイミズアブ2024	食品廃棄物, 家畜等排泄物, 循環経済
36	2部	農学部	野村 俊尚	サステナブルな社会の実現に向けた微細藻類の分子育種および生産技術の開発	微細藻類, ゲノム編集, 循環資源利用, バイオエネルギー
37	1部	農学部	宮城 敦子	腸管内菌叢が高シュウ酸植物摂食昆虫の成長と代謝に及ぼす影響	シュウ酸, 植食性昆虫, メタボローム解析

令和6年（2024年）8月1日

アフリカ農業従事者の来日研修が山形大学農学部で開始

【本件のポイント】

- アフリカの稲作技術者に対して行う収穫後処理に関する研修
- 独立行政法人国際協力機構（JICA）と大学による研修事業で、稲作の収穫後処理技術を対象としたものは、国内で山形大学のみが実施



【概要】

令和6年8月19日（月）からアフリカ各国の研修生14名が本学農学部で開講する『アフリカ地域稲作収穫後処理コース』研修を受講します。本研修は山形県、鶴岡市、JA鶴岡、秋田県大潟村の協力を得て、稲作における収穫処理や栽培技術の学習に加え、稲刈りや籾摺り・品質検査などの実習、乾燥貯蔵施設、農業機械工場、灌漑施設の見学を行います。

農学部では、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共同でアフリカ諸国を対象とした米生産に関する様々な研修や現地指導を実施してきました。研修最終日に各研修生がそれぞれの国が抱える稲作の収穫後処理に関する課題改善と技術普及プランの発表を行います。

【背景】

アフリカ開発会議（TICAD）において、日本政府はアフリカ諸国の稲作発展に貢献することを約束しています。このような背景のもとで、本学農学部と独立行政法人国際協力機構（JICA）は、平成20年（2008年）からアフリカ諸国を対象にした米生産に関するさまざまな技術研修と現地指導を実施してきました。現在、稲作の収穫後処理技術を対象としたJICAと大学による研修事業は国内で山形大学のみが実施しています。

【研修スケジュール等】

- ★研修期間：令和6年8月19日（月）～9月27日（金）
- ★参加国：ベナン、ブルンジ、カメルーン、コンゴ共和国、マダガスカル、コートジボワール、ガーナ、ギニア、リベリア、セネガル、タンザニア、トーゴ、ザンビア、エチオピア（14か国）
- ★使用言語：英語・フランス語
- ★コーディネーター：片平 光彦 教授（農業機械学）、角田 憲一 准教授（土壌・肥料学）、佐々木 由佳 准教授（栽培土壌学）、小林 隆 准教授（植物病理学）

【今後の展望】

本学で得られた稲作での収穫後処理に関する知識や技術は、アフリカの多くの国々へと広がっています。山形大学では、今後もこの研修事業を継続することでアフリカの稲作発展に対して貢献していきたいと考えています。

お問い合わせ

学術研究院教授（農学部担当） 片平 光彦／農学部学務課国際室 佐久間・加藤
TEL 0235-28-2847 メール yu-nogaku-ryug@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【参考：2023年度研修風景】



J I C A 英 語 圏

月日	曜	午 前（9:00～12:00）						月日	曜	午 後（13:00～16:00）						
		内 容	担 当	同行者	場 所	車	出発時間			出発地	内 容	担 当	同行者	場 所	車	出発時間
8月13日	火								8月13日	火						
8月14日	水	JICAブリーフィング 10:00～12:30	JICA		TIC				8月14日	水						
8月15日	木	Project Cycle Management (1)※8:30～12:30	JOCA 木村忠		TIC				8月15日	木	ブレアクションプラン準備 (1)	片平		TIC		
8月16日	金	Project Cycle Management (2)※8:30～12:30	JOCA 木村忠		TIC				8月16日	金	ブレアクションプラン準備 (2)	片平		TIC		
8月17日	土	Project Cycle Management (3)※8:30～12:30	JOCA 木村忠		TIC				8月17日	土						
8月18日	日								8月18日	日						
8月19日	月	学部挨拶・大学案内・自己紹介・研修の趣旨説明 スケジュール説明、大学の施設案内	渡部学部長・チューター		農学部1号館2階会議室				8月19日	月	プログラムオリエンテーション (JICA)	JICA		農学部1号館2階会議室		
8月20日	火	ポストハーベストの問題分析(1)	チューター		3階リフレッシュルーム				8月20日	火	ポストハーベストの問題分析(2)	チューター		3階リフレッシュルーム		
8月21日	水	ブレアクションプランの紹介	チューター		3階リフレッシュルーム				8月21日	水	ブレアクションプランの分析 鶴岡市長表敬訪問 16:00～	チューター		5階リフレッシュルーム 鶴岡市役所3F	○	
8月22日	木	稲作のポストハーベスト(1)	片平		3階リフレッシュルーム				8月22日	木	圃場を中心とした稲作作業	佐々木		3階リフレッシュルーム		
8月23日	金	稲と水	渡部		3階リフレッシュルーム				8月23日	金	収量と収量構成要素	佐々木		401講義室		
8月24日	土								8月24日	土						
8月25日	日								8月25日	日						
8月26日	月	適期収穫期などの重要性、適期判定法	佐々木		3階リフレッシュルーム				8月26日	月	収穫適期判定(実習)	佐々木		高坂農場	○	13:00 現地 雨天時中止
8月27日	火	米のカビ汚染防止のための管理	小林		3階リフレッシュルーム				8月27日	火	高坂農場圃場見学	小林(自家用車移動)		圃場(高坂農場)	○	13:00
8月28日	水	日本の灌漑	梶原		3階リフレッシュルーム				8月28日	水	稲作のポストハーベスト(2)	片平		3階リフレッシュルーム		
8月29日	木	水田農業研究所の研究内容紹介	水田農業試験場 中場		水田農業試験場	○	8:30	ホテル	8月29日	木	協同農業普及と事業の概要と実際の普及活動について	普及課 野仲・水戸部		庄内農業技術普及課	○	16:00 ホテル
8月30日	金	月山ダム見学	梶原・片平		月山ダム	○	8:30	ホテル(学部経由)	8月30日	金	農業機械展見学	片平		山形ビッグウイング		
8月31日	土	水田農業試験場参観デー	CDN		水田農業試験場	○	9:45	ホテル	8月31日	土						
9月1日	日								9月1日	日						
9月2日	月	大規模稲作見学(秋田県大潟村)	片平(バス同乗)			○	8:40	ホテル(学部経由)	9月2日	月	大規模稲作見学(秋田県大潟村)	片平(バス同乗)			○	ホテル(学部経由)
9月3日	火	大規模稲作見学(秋田県大潟村)					9月3日		火	大規模稲作見学(秋田県大潟村)						
9月4日	水	大規模稲作見学(秋田農試)		秋田県農業試験場					9月4日	水	出羽ノ雪 酒造資料館			渡曾本店		
9月5日	木	営農からみたJAの役割について	JA鶴岡(宮守)		3階リフレッシュルーム				9月5日	木	JA鶴岡施設見学	JA鶴岡(宮守)		JA鶴岡	○	13:30 農学部、現地発16:00
9月6日	金	日本の稲作の農業機械化(1)	片平		3階リフレッシュルーム				9月6日	金	アクションプラン準備 (1)	チューター		3階リフレッシュルーム		
9月7日	土								9月7日	土						
9月8日	日								9月8日	日						
9月9日	月	学会見学	夏賀		3階リフレッシュルーム				9月9日	月	水田の害虫、防除、生態系～日本と東南アジア	佐藤智		3階リフレッシュルーム		
9月10日	火	米の食味試験	㈱ファームフロンティア 藤井		農学部1号館2階会議室				9月10日	火	小型機械を用いた収穫調整(実習)	かくだ (自家用車移動)		高坂農場	○	12:40 農学部 雨天決行
9月11日	水	Site Specific Nutrient Management(1)	かくだ		401講義室				9月11日	水	Site Specific Nutrient Management(2)	かくだ		401講義室		
9月12日	木	松ヶ岡開墾記念館「庄内の米づくり用具」収蔵庫見学	片平		松ヶ岡開墾記念館	○	8:30	ホテル(学部経由)	9月12日	木	農業機械工場見学	片平		山本製作所	○	16:00 ホテル(学部経由)
9月13日	金	アクションプラン中間報告	チューター		3階リフレッシュルーム				9月13日	金	アクションプラン準備 (2)	チューター		3階リフレッシュルーム		
9月14日	土								9月14日	土						
9月15日	日								9月15日	日						
9月16日	月								9月16日	月						
9月17日	火	日本の稲作の農業機械化(2)	片平		3階リフレッシュルーム				9月17日	火	稲生理生態の基礎と栽培技術	茄子川		3階リフレッシュルーム		
9月18日	水	酒田米菓オランダせんべいFACTORY見学	片平		酒田米菓	○			9月18日	水	大規模稲作見学(石井製作所)	片平		石井製作所	○	
9月19日	木	水分と品質測定(実習)(1)	Tung、佐々木		1509実験室				9月19日	木	水分と品質測定(実習)(2)	Tung、佐々木		1509実験室		
9月20日	金	小型機械を用いた水稻の収穫(実習)	片平、Tung		高坂農場	○	8:30	ホテル、雨天中止	9月20日	金	アクションプラン準備 (3)	チューター		3階リフレッシュルーム		
9月21日	土	わんぱく農業クラブ	佐々木(←自家用車で移動→)		高坂農場	○	8:30	ホテル、大雨中止	9月21日	土						
9月22日	日								9月22日	日						
9月23日	月								9月23日	月						
9月24日	火	粳摺り機の性能評価(実習)(1)	片平		1257実験室				9月24日	火	粳摺り機の性能評価(実習)(2)	片平		1257実験室		
9月25日	水	圃場試験計画(1)	佐々木		農学部1号館2階会議室				9月25日	水	圃場試験計画(2)	佐々木		401講義室		
9月26日	木	アクションプランに関する総合討論	チューター		3階リフレッシュルーム				9月26日	木	アクションプランに関する総合討論	チューター		3階リフレッシュルーム		
9月27日	金	最終報告審査会	大学役員、チューター、JICA		401講義室				9月27日	金	最終報告審査会、評価会議、修了書授与式、歓送会	大学役員、チューター、JICA		401講義室、会議室		

J I C A 仏 語 圏

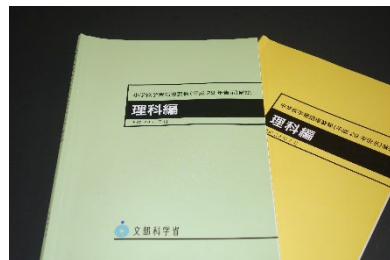
月日	曜	午 前 (9:00～12:00)							月日	曜	午 後 (13:00～16:00)						
		内 容	担 当	同行者	場 所	車	出発時間	出発地			内 容	担 当	同行者	場 所	車	出発時間	出発地
8月13日	火								8月13日	火							
8月14日	水	JICAブリーフィング 10:00～12:30	JICA		TIC				8月14日	水	Project Cycle Management (1)※13:30～17:30	JOCA 木村忠		TIC			
8月15日	木	ブレアクションプラン準備 (1)	片平		TIC				8月15日	木	Project Cycle Management (2)※13:30～17:30	JOCA 木村忠		TIC			
8月16日	金	ブレアクションプラン準備 (2)	片平		TIC				8月16日	金	Project Cycle Management (3)※13:30～17:30	JOCA 木村忠		TIC			
8月17日	土								8月17日	土	Project Cycle Management (4)※13:30～17:30	JOCA 木村忠		TIC			
8月18日	日								8月18日	日							
8月19日	月	学部挨拶・大学案内・自己紹介・研修の趣旨説明 スケジュール説明、大学の施設案内	渡部学部長・チューター		農学部1号館2階会議室				8月19日	月	プログラムオリエンテーション(JICA)	JICA		農学部1号館2階会議室			
8月20日	火	ポストハーベストの問題分析(1)	チューター		5階リフレッシュルーム				8月20日	火	ポストハーベストの問題分析(2)	チューター		5階リフレッシュルーム			
8月21日	水	ブレアクションプランの紹介	チューター		5階リフレッシュルーム				8月21日	水	ブレアクションプランの分析 鶴岡市長表敬訪問 16:00～	チューター		5階リフレッシュルーム 鶴岡市役所3F	○		
8月22日	木	圃場を中心とした稲作作業	佐々木		5階リフレッシュルーム				8月22日	木	稲作のポストハーベスト(1)	片平		5階リフレッシュルーム			
8月23日	金	収量と収量構成要素	佐々木		5階リフレッシュルーム				8月23日	金	稲と水	渡部		5階リフレッシュルーム			
8月24日	土								8月24日	土							
8月25日	日								8月25日	日							
8月26日	月	米のカビ汚染防止のための管理	小林		5階リフレッシュルーム				8月26日	月	高坂農場圃場見学	小林(自家用車移動)		圃場(高坂農場)	○	13:00	現地発16:00 雨天決行
8月27日	火	適期収穫期などの重要性、適期判定法	佐々木		5階リフレッシュルーム				8月27日	火	収穫適期判定(実習)	佐々木 (自家用車移動)		高坂農場	○	16:00	現地 雨天中止
8月28日	水	稲作のポストハーベスト(2)	片平		5階リフレッシュルーム				8月28日	水	日本の灌漑	梶原		5階リフレッシュルーム			
8月29日	木	協同農業普及事業の概要と実際の普及活動について	普及課 野仲・水戸部		庄内農業技術普及課	○	8:30	ホテル	8月29日	木	水田農業研究所の研究内容紹介	水田農業試験場 中場		水田農業試験場	○	16:00	ホテル
8月30日	金	月山ダム見学	梶原・片平		月山ダム	○	8:30	ホテル(学部経由)	8月30日	金	農業機械展見学	片平		山形ビッグウイング	○		
8月31日	土	水田農業試験場参観デー	CDN		水田農業試験場	○	9:45	ホテル	8月31日	土							
9月1日	日								9月1日	日							
9月2日	月	大規模稲作見学(秋田県大潟村)	片平(バス同乗)			○	8:40	ホテル(学部経由)	9月2日	月	大規模稲作見学(秋田県大潟村)	片平(バス同乗)			○		ホテル(学部経由)
9月3日	火	大規模稲作見学(秋田県大潟村)							9月3日	火	大規模稲作見学(秋田県大潟村)						
9月4日	水	大規模稲作見学(秋田農試)			秋田県農業試験場				9月4日	水	出羽ノ雪 酒造資料館			渡曾本店			
9月5日	木	Site Specific Nutrient Management (1)	かくだ		5階リフレッシュルーム				9月5日	木	Site Specific Nutrient Management (2)	かくだ		5階リフレッシュルーム			
9月6日	金	営農からみたJAの役割について	JA鶴岡(宮守)		5階リフレッシュルーム				9月6日	金	JA鶴岡施設見学	JA鶴岡(宮守)		JA鶴岡	○	13:30	農学部、現地発16:00
9月7日	土								9月7日	土							
9月8日	日								9月8日	日							
9月9日	月	水田の害虫、防除、生態系～日本と東南アジア	佐藤智		5階リフレッシュルーム				9月9日	月	学会見学	夏賀					
9月10日	火	圃場試験計画(1)	佐々木		5階リフレッシュルーム				9月10日	火	米の食味試験	榊ファームフロンティア 藤井		農学部1号館2階会議室			
9月11日	水	日本の稲作の農業機械化(1)	片平		5階リフレッシュルーム				9月11日	水	圃場試験計画(2)	佐々木		5階リフレッシュルーム			
9月12日	木	松ヶ岡開墾記念館「庄内の米づくり用具」収蔵庫見学	片平		松ヶ岡開墾記念館	○			9月12日	木	農業機械工場見学	片平		山本製作所	○	17:00	ホテル(学部経由)
9月13日	金	アクションプラン中間報告	チューター		5階リフレッシュルーム				9月13日	金	小型機械を用いた収穫調整(実習)	かくだ(自家用車移動)		高坂農場	○		
9月14日	土								9月14日	土							
9月15日	日								9月15日	日							
9月16日	月								9月16日	月							
9月17日	火	稲生理生態の基礎と栽培技術	茄子川		5階リフレッシュルーム				9月17日	火	アクションプラン準備 (1)	チューター					
9月18日	水	酒田米菓オランダせんべいFACTORY見学	片平		酒田米菓	○			9月18日	水	大規模稲作見学(石井製作所)	片平		石井製作所	○		
9月19日	木	日本の稲作の農業機械化(2)	片平		1509実験室				9月19日	木	アクションプラン準備 (2)	チューター		5階リフレッシュルーム			
9月20日	金	アクションプラン準備 (3)	チューター		5階リフレッシュルーム				9月20日	金	小型機械を用いた水稻の収穫(実習)	片平、Tung		高坂農場	○	16:00	現地 雨天時中止
9月21日	土	わんぱく農業クラブ	佐々木(←自家用車で移動→)		高坂農場	○	8:30	ホテル	9月21日	土							
9月22日	日								9月22日	日							
9月23日	月								9月23日	月							
9月24日	火	水分と品質測定(実習)(1)	Tung、佐々木		1509実験室				9月24日	火	水分と品質測定(実習)(2)	Tung、佐々木		1509実験室			
9月25日	水	粳摺り機の性能評価(実習)(1)	片平		5階リフレッシュルーム				9月25日	水	粳摺り機の性能評価(実習)(2)	片平		1257実験室			
9月26日	木	アクションプランに関する総合討論	チューター		5階リフレッシュルーム				9月26日	木	アクションプランに関する総合討論	チューター		5階リフレッシュルーム			
9月27日	金	最終報告審査会	大学役員、チューター、JICA		401講義室				9月27日	金	最終報告審査会、評価会議、修了書授与式、歓送会	大学役員、チューター、JICA		401講義室、会議室			

令和6年（2024年）8月 1日

小学校理科の教育プログラムースキルアップ講座ーを実施します

【本件のポイント】

- 山形大学地域教育文化学部が、教員の養成・研修の一体的事業を実施します。この教員の養成・研修の一体的事業とは、教員養成のための大学授業の一部を現職教員の研修の機会として、教員研修のための教育委員会の講座の一部を教員志望の学生の学び機会として、お互いに共有するものである。
- 本事業では、県内の小学校・中学校（理科）教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、別紙のとおり、小学校理科の授業力を向上させるための「小学校理科の教育プログラムースキルアップ講座ー」（主催 山形大学地域教育文化学部、後援 山形県教育委員会）を実施することとした。
- 本事業の実施により、山形大学が理科に強い小学校教員の養成する大学となることが期待できる。



【概要】

山形大学地域教育文化学部では、教員の養成・研修の一体的事業として、山形大学と山形県教育センター（山形県教育委員会）および山形市総合学習センター（山形市教育委員会）が協力して、小学校理科の授業を実施するために必要な資質・能力を身に付けることを応援するため、県内の小学校・中学校（理科）教員および小学校教員免許状取得を目指す学生を対象に、別紙（案内）のとおり、小学校理科の授業力を向上させるための教育プログラムースキルアップ講座ーを実施することとしました。

この教員の養成・研修の一体的事業は、平成30年度から開始したもので、今年度で7年目をむかえます。

このような本事業の実施により、県内小学校教員の理科に関する資質・能力の向上に寄与できるとともに、山形大学が理科に強い小学校教員の養成する大学となることが期待できます。

【講座内容】

実施日時：令和6年9月11日（水）～

実施場所：山形大学小白川キャンパス、山形市総合学習センター

実施内容：小学校理科の授業力向上に関する様々な活動を実施します。

- ・理科の授業研究
- ・理科の教材研究
- ・理科室の管理・運営
- ・理科の観察と実験 など

【申込方法など】 別紙のとおり、Eメールにてお申し込みください。
参加費 無料

なお、本事業は、やまがた社会共創プラットフォームを活用した本学の社会共創活動推進プロジェクトの一つとして実施するものです。

お問い合わせ

学術研究院准教授（教育学）大学院教育実践研究科主担当（鈴木宏昭）

TEL 023-628-4427 メール hsuzuki@e.yamagata-u.ac.jp